

市内景気動向調査結果

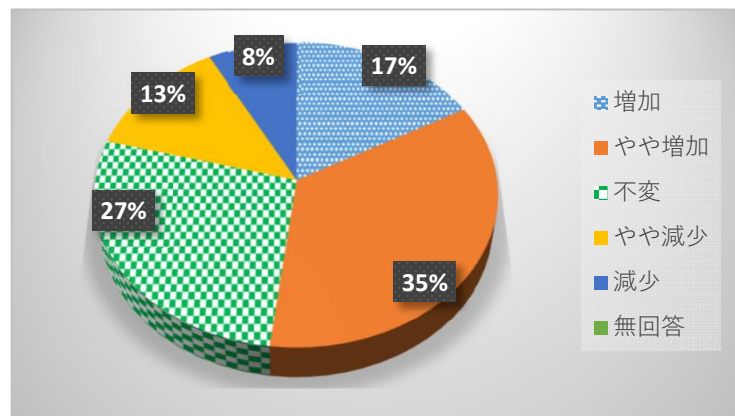
この調査は、第3四半期（令和6年10月から12月）と前年同期間（3ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
77	21	14	-	12	23	7

※その他は、回答数が少なかった運輸業、飲食業、不動産業、

1. 売上高はどう変化したか。

増加	13
やや増加	27
不変	21
やや減少	10
減少	6
無回答	0
合計	77

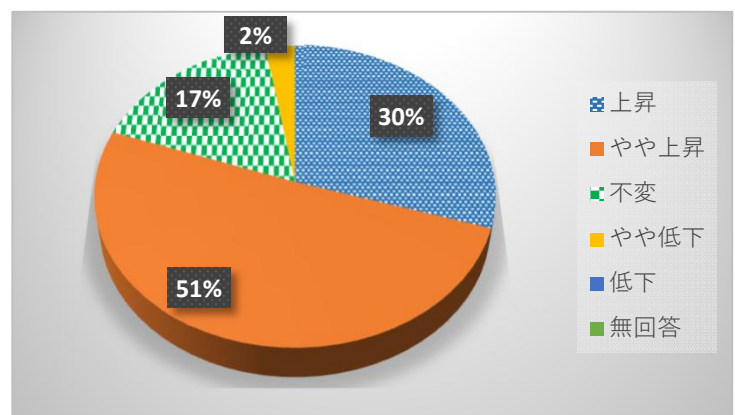


【コメント】

- 増加・やや増加が51.9%、不変が27.3%、やや減少・減少が20.8%であった。前年同期では、増加・やや増加が44.3%、不変が17.7%、やや減少・減少が38.0%であったので、二極化傾向にある。
- 増加・やや増加の業種別割合は、製造業が57.1%、サービス業が52.2%、建設業が47.6%、卸小売業が33.3%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、卸小売業が33.3%、製造業が28.6%、建設業が19.1%、サービス業が17.4%であった。
- 売上増の企業が半数を超えているが、物価高騰による仕入単価を転嫁したためと考えられる。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	23
やや上昇	39
不変	13
やや低下	2
低下	0
無回答	0
合計	77



【コメント】

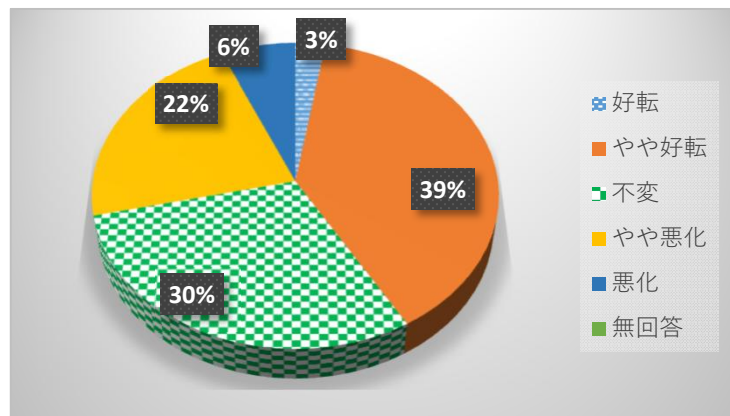
- 上昇・やや上昇が80.5%、不変が16.9%、やや低下・低下が2.6%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が79.7%、不変が13.9%、やや減少・減少が5.1%であった。
- 上昇・やや上昇の業種別割合は、卸小売業が91.7%、建設業が90.5%、

サービス業が73.9%、製造業が71.4%であった。

- 依然として高い水準で、原材料などの仕入価格高騰が続いている。

3. 採算について

好転	2
やや好転	30
不変	23
やや悪化	17
悪化	5
無回答	0
合計	77

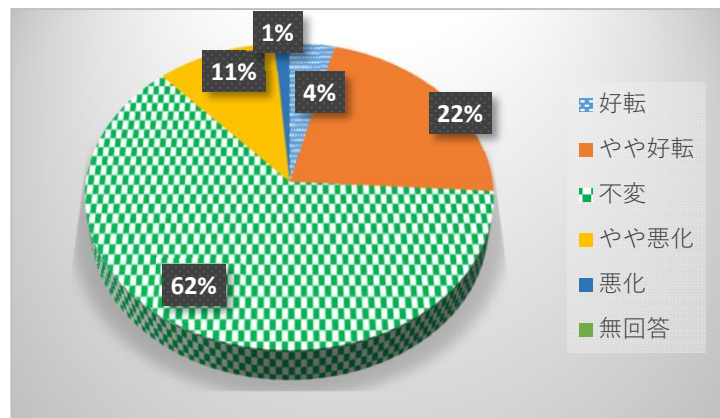


【コメント】

- 好転・やや好転が41.5%、不変が29.9%、やや悪化・悪化が28.6%であった。前年同期の好転・やや好転が22.8%、不変が38.0%、やや悪化・悪化が39.2%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が50.0%、建設業と製造業が28.6%、サービス業21.7%となっている。
- 建設業と製造業は、資材・原材料高騰分をある程度、価格転嫁できているため採算の好転が見られるが、卸小売業は価格転嫁しにくい状況にある。

4. 資金繰りについて

好転	3
やや好転	17
不変	48
やや悪化	8
悪化	1
無回答	0
合計	77

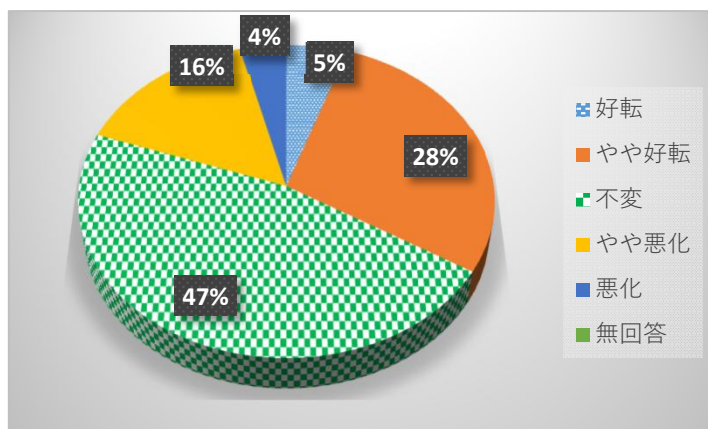


【コメント】

- 好転・やや好転は26.0%、不変が62.3%、やや悪化・悪化が11.7%であった。前年同期の好転・やや好転が17.7%、不変が63.3%、やや悪化・悪化が17.7%であった。
- 資金繰り悪化の業種割合では、製造業が21.4%、卸小売業が16.7%、サービス業が13.0%であった。
- 資金繰りについては、前年同期と比較して改善傾向ではあるが、決して良い状況ともいえない。

5. 業況について

好転	4
やや好転	22
不変	36
やや悪化	12
悪化	3
無回答	0
合計	77

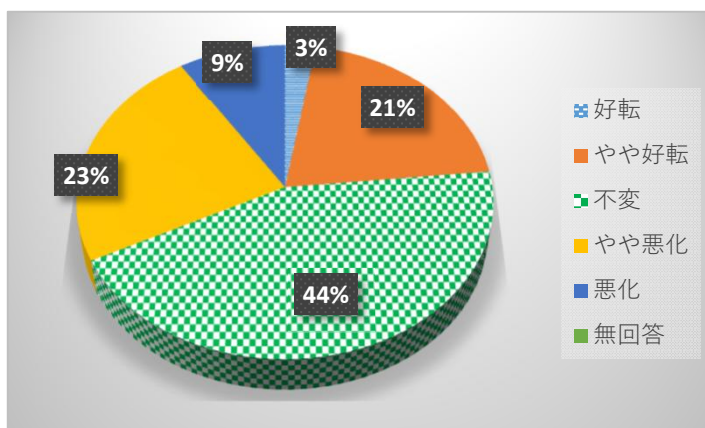


【コメント】

- 好転・やや好転は33.3%、不変が46.7%、やや悪化・悪化が19.5%であった。前年同期は、好転・やや好転が31.6%、不変が32.9%、やや悪化・悪化が35.4%であった。
- 業況好転の割合が高い業種は、建設業が38.1%、製造業が35.7%、サービス業が30.4%であった。業況悪化の状況は、総じて低い状況。
- 物価高騰の中、業況は比較的安定している。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	2
やや好転	16
不変	34
やや悪化	18
悪化	7
無回答	0
合計	77



【コメント】

- 好転・やや好転が23.4%、不変が44.1%、やや悪化・悪化が32.5%で、前年同期では、好転・やや好転が15.2%、不変が40.5%、やや悪化・悪化が44.3%であった。
- 今後3ヶ月間の業況予想では、卸小売業と建設業の40%前後が悪化と回答しており、人材不足、賃金上昇、物価高騰の影響が今後も続く予想される。

■回答事業所からのコメント

【建設業】

- 冬季要因によるもの。
- 現状維持です。
- 原油価格の高騰。
- 今後3ヵ月間の業況については、閑散期を迎えるため。
- アパート、マンション物件が多いため。
- 第3四半期は消化物件が取り込めたが、冬期施工での原価逼迫と除雪業務での降雪不足が懸念される。
- 仕入単価の上昇により採算が良くない状況になりそう。

- 仕入上昇分を売上価格に転嫁できたことが大きいと思う。価格で競争しない商材で勝負したいと思っている。
- 2025年度も昨年に引き続き、住宅省エネキャンペーンにおける3省連携補助制度が実施されますので、期待しています。
- 1～3月は、札幌市の除雪を請け負っているので、降雪の量によって左右されます。本年は今のところ少ないので厳しいです。
- 人手不足、物価高が続く中、春のベースアップの影響が業況に響いてきている。

【製造業】

- 受注高、売上高は伸長となるも、原材料価格の継続的な高騰で採算は悪化していくことが予想される。当社の場合、受注から納品まで6ヵ月から1年かかるため、受注時の予定原価が悪い方へ変更する。
- ラピダス関連の廃棄物が入ってきたことにより、やや好調。
- 印刷媒体の減少。原材料の物価高。
- 年明け、年度末に向けて受注が落ちる。
- 市場動向が好転しているため、直近の業況等はやや好転している。一方、仕入れ品の一部に納期遅延が発生している点は不安材料である。
- 冬期間不需要期（1～3月）に入るため売上には期待できない。国策の補助金物件売上が11月に集中した。
- 委託先メーカーからの受注数量が、この時期は減少したため売上高は減少傾向となった。年度末に向け減少分が回復。3月期末に向け発注ありのため、年間通しては不変となる予想、計画である。当期においても原材料費や輸送費等、エネルギー経費は上昇し続けている。次年度4月以降に医療費抑制策／薬価引下改定があり影響を防ぐ活動が今から検討必須となります。工場業況を悪化させないために。
- 年明け、年度末に向けて受注が落ちる。特に野菜など日用品の物価高騰が購入を控えている様子。冬は観光客も多くは望めないのが、営業時間の短縮や日数を減らさざるを得ない感じではある。本州のイベントに参加したり、通販を強化したりと色々考えています。
- 偶発的な影響を受け、機械製造物の出荷が滞り、売上、資金面で悪化。業況は不変。
- 今期、風邪やインフルエンザなどの流行に伴い、関連商材の需要があり昨年同期より売上はやや改善した。ただ上半期の売上減とDX化による投資（償却）が若干重くなっている。

【卸小売業】

- 政府の再エネ補助金の交付が8月末からの発表のため、秋の工事には間に合わないため、B to Bの大きな工事の売上は伸びなかった。
- 全ての固定費が高くなっており、今後業況が悪化すると思う。
- 人件費を減らしたため作業効率が悪くなった。年末年始体調を崩したため動きが止まってしまった。売上は全体的に上がったが、売価が上がっているため、それを考えるともっと上げるべきだと感じた。人に動きにも変化を感じた2024年だった。
- エネルギー価格や物流コストの上昇から、やや悪化が予想される。
- この期間は前年プレミアム券がありました。今回は、そういうものがなかった割には売上が作れたように思います。周りの状況は何も変わってはいませんが、珍しく10～12月は売上が前年比100%を超えることができました。
- 相変わらず有機肥料が値上がっており、今後は自家製完熟堆肥づくりに専念して戴き、家畜飼料の栽培に関わる自然循環型農業を推奨して参りたい。

【サービス業】

- インバウンド、国内ツアー客の増加により客数、売上の増加のため。売上は昨年より1.5倍程度の増加。
- 職員不足。
- 仕入も上がりレンタル料に転嫁しながら利益確保に努めていますが、なかなか変わりません。
- コンスタントに利用に繋がる問い合わせが増加している。

- 冬で光熱費の出費が多い。トリミングに来る期間が長くなる。
- 福祉サービス全体では収益は増加した。就労事業部門（飲食）については売上は微減、仕入単価が上昇し収益は減少している。報酬改定により収益は増加（重度の利用者への加算が増加）。水道光熱費および食材費の仕入原価が高騰しているため業況としては、やや悪化してる。
- 建築設計については本年も好転が見込まれる。
- 北広島は「ファイターズの成績で景気を左右されるまち」を感じた3ヵ月でした。
- 物価の上昇により商材仕入の値上げにより粗利がさがっている。コロナ禍より、お客様は戻っているが売上の上昇が少ない。
- 全体的に悪化傾向にある。特に重油の政府補助金が縮小されたため燃料費に大きく影響を受けた。今後も補助金の縮小は進むものと思われるので、さらなる悪化が懸念される。
- 10・11月は業界的に閑散期ではあるが、顧客先の稼働変動幅が少なく、売上予算から若干の上積みができた状況であった。今後の1～3月は、国の燃料油激変緩和の補助率に変更となるため、経費割合の大きい燃料費が増加することが明らかであり、収支状況がやや悪化する想定である。

【その他】

- 人材不足、作業形態の変更、賃金UP。
- 販路を拡大したことにより売上高は増加したが、仕入単価は上昇しており利幅は減少。カード決済、QR決済の入金タイミングによってキャッシュの流れが悪くなってしまう。
- 入居者が増えた。